

エピソード

1929年に世界大恐慌が起こります。それに伴って政権交代が起こり、共和党のフーバーから民主党のルーズベルトに変わります。ジョン・ケインズは政府の経済顧問として正式に修正資本主義を採用し、ニューディール政策を実行します。

ここに至って、やっとシェルドンの経営理念が政府の政策として実施されたわけです。

しかし、これによって景気が改善されたわけではありません。代表的な景気回復の策として軍需産業に力が注がれ、その結果、日本が標的にされて、止む無く起こった第二次世界大戦によってアメリカの景気は回復します。日本も朝鮮戦争が契機になって成長への道を歩みます。なんとも皮肉なことです。

戦後のロータリーは、ボランティア組織として、飛躍的な発展を遂げます。理論的抗争は影を潜め、今や **He profits most who serves best** を語る人も少数派となり、**Service above self** は RI 会長テーマに格上げされ、ロータリーを称して世界最大の NPO 団体とまで豪語する会長や、ポイント制度を作って会員同士の取引に便宜を図ろうという会長まで現れる始末です。

今やロータリーは **Service above self** をモットーとする人道的奉仕活動を主流とするボランティアが多数派を占める団体と化してしまいいまい、シェルドンの名前すら忘れ去られようとしています。

ロータリーの真の存在価値を説こうと思うのなら、それは経営学を基本として構築されたものであることを理解し、**Sheldonism** の奉仕理念のもとで、経営学の専門家集団として原点回帰に励むべきであることを理解しなければなりません。

正しい経営理念の下で得た利益を、ボランティア活動の原資にするのならば知らず、人道的奉仕活動の実践活動を目的に募金活動に狂奔するのは本末転倒ではないでしょうか。

He profits most who serves best はロータリーという狭い社会に留まらせるモットーではありません。経営学の原点として、広く全世界の経済人に浸透させるべきモットーなのです。

社会のニーズに応えるためには **Service above self** は欠かすことのできない実践哲学です。しかし、この「他人のことを思い遣り、他人のために尽くす活動」も、**He profits most who serves best** という経営学の基本理念が存在してこそ、初めて本領を発揮できるのです。



RIは1963年の「職業分類の概要」発行を最後に、標準職業分類表の発行を含めた一切の作業を中止したままで現在に至っております。従ってそれ以降は各クラブが独自の職業分類表を作らざるを得なくなると同時に、現実には予め作成した職業分類表にしたがって会員増強を図るのではなく、入会した会員に当てはまる職業分類を作成するという、本末転倒ともいえる状態が続いているのが現状です。

昨今の特徴として、一次産業や二次産業が激減して、三次産業が大きなウエイトを占めるようになってきました。医療分野でも、従来の内科・外科という大まかな分類ではなく専門医として細分化されるようになってきました。

IT技術が発達して、全てがロボット任せになり、人間の職業の大半が失われるという人もいますが、果たしてそうでしょうか。ロボットの製作や管理はロボットでもできますが、それを最初にロボットに教えこむのは、やはり人間の力なのです。この膨大な作業をするために、沢山の職業が生まれるでしょう。

2016年、RIは従来のクラブ管理を断念して、ほとんどの部分をクラブに委ねることに方針変更をしました。

地区はRIに直結しており、ガバナーはRI役員として地区リーダーシップ・プランDLPを遵守する必要がありますが、クラブはRIが組織される前から存在していたという理由で、自治権という大きな特権を持っています。クラブ・リーダーシップ・プランCLPは単なるRIの推奨であって、クラブはクラブの実情に合わせた細則の下で、クラブを管理運営したらよいのです。

RIからの上意下達ではなくて、クラブが自由に管理運営できることは、大いに喜ばしい方針変更です。

次に願うことは、地域別の自治権です。イギリスのロータリー群が独自の定款細則の下で管理運営されているように、かつて存在した日満ロータリー・クラブ連合会の例を引き出すわけではありませんが、地域の特徴を生かした中間管理組織を作る必要があります。

アメリカン・スタンダードではなく、東洋の思想、イスラムの思想等々、地域別の思想や考え方は尊重されなければなりません。



フリードリッヒ・ハイエク

昨今では、フリードリッヒ・ハイエクに代表される新資本主義に弄ばれて、超高速のコンピューターに操作された投資に一喜一憂する人が激増してきました。世界中の富裕層や金融機関からファンドを募り、現物の伴わない先物で巨額の取引を繰り返すのですから、破綻する可能性も高いことは、リーマン・ブラザーズの例からも明らかです。

それにも拘わらず、アメリカでは「America First」を掲げる新資本主義のリーダー、ドナルド・トランプが大統領になり、日本でも一旦は刑事訴追を受けたはずの堀江貴文氏や村上世彰氏などの投資グループに熱い視線を注ぐ投資家が後を絶ちません。

Sheldonism に従った取引は奉仕が目的であり、利潤を目的とした取引は虚業であることを忘れてはならないのです。

地球の資源が枯渇して残り少なくなったことを自覚した時に、人人は他人のことを思いやり、残り少ない資源を皆で分かち合わなければならないことに気づくでしょう。僅かな物資を分け合って人人は助け合って生きていかなければなりません。この分かち合いの社会のことを、フランスの経済学者、ジャック・アタリは超民主主義と呼んでいます。

超民主主義は利他主義であり、これまで個人の利益・幸福を追求したことに対する反省をこめて、人々が他人のために働くことによって自分の利益を得るという心の発展と開放を目指すことを意味します。



ジャック・アタリ

まさにロータリーの *He profits most who serves best* の理念であり、シェルドンが述べたように、靴屋は靴を売って儲けているのではなく、店に来る客に奉仕するために靴という商品を提供しているのです。

超民主主義とは、市場原理主義の限界を超えた、人の善意で世界が運営される、国境すらない世界平和主義という理想モデルの一つなの

です。そしてロータリーは超民主主義を目指して 100 年有余の活動を続けてきたはずです。

これが、Sheldonism の真髄であることは、道徳律の第 11 条に、「he profits most who serves best」という黄金律の普遍性を信じ、すべて



トランス・ヒューマンの
シンボルマーク

の人に地球上の天然資源を機会均等に分け与えられた時に、社会が最もよく保たれることを主張するものである」と書かれていることから明らかです。

超民主主義のリーダーとして未来の人類を牽引していく人達のことをトランス・ヒューマンと呼んでいます。トランス・ヒューマンとは知的にも肉体的にも道徳的にも最も進化した未来の人間像を現し、他人のことを思い遣り他人のために尽く

す調和を重視した超民主主義を構築する中心的役割をする存在と定義されています。私はそれを、未来のロータリアンの姿に重ね合わせます。

近未来の社会を管理するためには、ロータリーの正しい経営学に基づく高い倫理基準と理性的な行動力が必要になってきます。これらの技術を開発するための優秀な頭脳を持つ人材をつくり出すことが将来のロータリー財団の重要な役割になっていくでしょう。

RI がどの道を歩もうとも、He profits most who serves best というモットーが残っている限り、我々個々のロータリー・クラブとロータリアンは、Sheldonism の精神に従って、正しい経営者としての道を進まなければならないのです。

He profits most who serves best の理念に基づいて、Service above self の活動をすることによって、トランス・ヒューマンとして我々の

住む地球を次の世代に引き継ぐことが、我々ロータリアンの責務ではないでしょうか。

日本の職業奉仕に対する考え方は、RI やメジャーなロータリアンの考え方と乖離しているという人がいますが、果たしてそうでしょうか。ドイツでは日本と同じように **Sheldonism** による奉仕理念を遵守するロータリアンが多く、それが返って会員増強や拡大に繋がっていると言われてています。

Arthur Frederick はドイツ読みをすれば「アルツール・フリードリッヒ」であり、明らかにドイツ移民の末裔であると考えられます。英語が重要視されたのは戦後のことであり、それまでは、司法制度も哲学も医学もドイツを模したものでした。私は 1961 年の卒業ですが、ドイツ語は必須科目であり、カルテは全てドイツ語で書いていました。ひょっとしたら、経営学の基本もドイツから学んだのかも知れませんし、人名は知られなくても、シェルドンの考え方が日本に受け入れられて、定着したのかも知れません。

He profits most who serves best のモットーが生きている限り、**Sheldonism** による経営学に基づく奉仕理念は残っているわけで、乖離しているのはむしろ RI の方だと思います。

日本の職業奉仕の考え方について、ガラパゴス論が横行しているようです。日本だけに特別な職業奉仕の考え方が定着したというガラパゴス論です。

それよりも、**Sheldonism** の奉仕理念を理解して、それを遵守しようとするが故、進化して質が高くなり過ぎて、勉強不足のロータリアンには理解できないため、グローバル・スタンダードにはなりえないというガラパゴス論の方が、日本におけるシェルドンの奉仕理念の解釈に当てはまるのかもしれない。

ガラパゴス諸島が世間と隔絶され絶海の孤島であるという考え方



ガラパゴス諸島のロータリアン

は間違いです。

エクワドル国に属し、
沢山の住民が生活して
おり、Rotary Club of
Galapagos Islands と
いうロータリー・クラブ
も存在しています。



私も齢、80の半ばに達し、この拙文が最後の著作になるような気がします。

ロータリー運動の真髄を求めて、シェルドンの森を巡る旅は、若いロータリアンにバトン・タッチしながら、まだまだ続けなければなりません。

He profits most who serves best のモットーが残っている限り、ロータリーの経営学に基づく奉仕理念の原点である Sheldonism が決して忘却の彼方に消え去らないように、敢えて、探索と理論構築の旅を歩み続けなければならないのです。

最後になりますが、本書の校正を快く引き受けて頂いた、千葉西ロータリー・クラブの海寶勘一氏に篤く御礼申し上げます。



参考文献

Arthur Frederick Sheldon

The Science of Successful Salesmanship

The Science of Industrial Success

The Science of Business Building

The Art of Selling

The Science of Business

Sheldon Course

Successful Selling

The philosophy and ethics of successful accomplishment

The philosophy of service

The Rotary Philosophy

The Symbolism of Service

Service and Conservation

第 1 回全米 RC 連合会大会議事録

第 2 回全米 RC 連合会大会議事録

第 4 回国際連合会大会議事録

第 12 回国際連合会大会議事録

The National Rotarian Nov. 1911

The Rotarian Nov. 1913、Sep. 1918、Feb. 1921

The story of Minneapolis Rotary

National Hand Book

The Meaning of Rotary

詳説 アーサー・フレデリック・シェルドン

田中 毅

奉仕理念の提唱者 アーサー F. シェルドン

田中 毅

ロータリーの奉仕理念

田中 毅

ロータリー歴史探訪

田中 毅

ロータリーの森

田中 毅



TANAKA TAKESHI

発行 2017年7月

著者 田中 毅 尼崎西ロータリー・クラブ
発行者 源流の会

1996年度 2680地区(兵庫)パストガバナー

2007年度 超我の奉仕賞受賞

Mail ashicon@pop02.odn.ne.jp

ロータリー・アーカイブス URL <http://genryu.org>

主な著書

| | |
|-----------------------|----|
| Golden Strand | 翻訳 |
| Rotary ? | 翻訳 |
| The Meaning of Rotary | 翻訳 |
| Rotary Philosophy | 翻訳 |
| 奉仕の原則と保全の法則 | 翻訳 |
| 理念の提唱者 アーサー・シェルドン | |
| 詳説 アーサー F. シェルドン | |
| ロータリー歴史展望 | |
| ロータリー歴史展望(日本編) | |
| 職業奉仕 その原理と実践 | |
| ロータリーの奉仕理念 | |
| ロータリーの森 | |

本書は単行本として「源流の会」より発行されています。
ご希望の方は「ロータリーの源流」---「源流の会出版物」より
ご購入ください。